

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102187
法人名	社会福祉法人 松山紅梅会
事業所名	グループホーム 梅本の里
所在地	愛媛県松山市北梅本町1624-1
自己評価作成日	平成 23年 10月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の行きたいところに行き、やりたい事をやるというように、なるべく利用者の希望を叶えられるようにすることに特に力を入れている。開設から10年が経ち、ハード面が今の利用者のADLに対応できないことも出てきているので、そのところは職員の技術向上に努めてカバーしていけるようにしている。またADLの低下で外出なども減ってはいるが、その分、ホーム内行事などを見直し充実させる事がこの最近できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者と共に笑い・家族と共に歩み・地域と共に支え合う」という理念を掲げ、利用者一人ひとりを尊重した支援を心掛けている。事業所開設当初からボランティア団体と繋がりを持ち、サロン等を通じて地域との触れ合いは活発である。ペランダからは、自然豊かな景色が一望でき、遠方の外出が困難な利用者に対しても満足できるような環境となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム 梅本の里
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	野本 浩二
評価完了日	平成23年 10月19日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員が1日1回は目にするような場所に理念を貼り、それぞれが意識できるような環境作りに努めている。またそれが実践できるようにそれぞれが努力している。</p> <p>(外部評価) 全職員で話し合い「利用者と共に笑い・家族と共に歩み・地域と共に支え合う」という理念を掲げている。玄関やユニット内等、目の行き届きやすい場所に掲示し、職員間で共有されている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事には積極的に参加するように心掛けている。また利用者の散歩などで近隣の方々とすれ違う際には、利用者と共に笑顔であいさつするように心掛けている。</p> <p>(外部評価) 法人主催の夏祭りには地域の大勢の方の参加があり、行事を通じて交流を深めている。月1回開催されるサロンには利用者が参加しており、カラオケやゲートボール等を行い楽しんでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の学校や保育園と月1回程度の交流を行い、主に子供達に認知症を理解してもらえるような取り組みをおこなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行い、さまざまな視点から会議を行っている。そこで得たものなるべくサービスの向上に繋がっていけるように工夫をしている。	
			(外部評価) 会議では主に利用者の状況の説明や開催予定の行事の説明をしている。議題については話し合いをする中で自然に出される等、参加者が気軽に意見を出しやすい雰囲気となっている。運営推進会議を行事と合わせて開催する等、参加しやすいよう工夫している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 主に市町村とは運営推進会議での連絡のやり取りを行っている、それ以外では連絡という形では連携できていない。	
			(外部評価) 市介護保険課と介護保険の制度内容の確認や情報交換をしたり、地域包括支援センターと利用者についての相談等を行っている。保健所からは事業所内における衛生面のアドバイスがあり、利用者へ提供するサービスの向上に反映させている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) まず身体拘束はしないということで日々のケアを行っている。また職員会議でも身体拘束について度々話し合い、職員全員で理解していけるように心掛けている。	
			(外部評価) 地域密着型サービス協会や県が主催する研修に積極的に参加し、身体拘束をしないケアの知識と技術の向上に努めている。研修で得た情報や知識については、職員会議等を通じて職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の外部研修にも積極的に参加し、学ぶ機会を作っている。日々注意して利用者の状態観察に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者や計画作成担当者は学ぶ機会を持っているが、一般職員については、あまり浸透出来ておらず、徹底できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にはよく説明し、利用者や家族に納得できるように十分に説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や行事に参加してもらった時などに意見交換できるような形をとり、なるべく運営に反映できるようにしている。	
			(外部評価) 3か月に1回、家族へケアプラン説明をする時や、運営推進会議の際に意見をもらっている。家族が意見を気軽に言いやすい関係を構築するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者は積極的にコミュニケーションをとり、職員の意見をよく聞き、なるべくその意見が上手く反映できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 毎月行われる職員会議や日々の業務の中で意見が出されている。出された意見については、職員同志で話し合いを行い事業所の運営がより良いものとなるよう、取り組まれている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 徐々に就業環境が整ってきていると思うが、まだまだ整備していかなくてはならない課題があると思うので、今後も職員のモチベーションが上がるように整備して行って欲しい。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修などに参加はしているが、それが完全に上手くいっているとは思えない。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 年に一度の相互研修や月に一度の外部研修で同業者間で意見交換する機会ができています。また他のグループホームの運営推進会議にも時々参加しています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 最初の情報を基に本人や家族とよく話し合い、要望に応えられるようなサービスを行い、本人が安心して生活できるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ちょっとしたことでも家族に連絡し、ホームでの生活状況を伝えるように努めて、信頼関係を深めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 最初の情報を基に、何が一番必要かを職員同士または家族、本人とよく話し合い見極めれるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できることはやってもらい、すべて職員がやってしまわないようにそれぞれが心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) できている家族とできていない家族に分かれているのが現状で、今後、できていない家族にどうアプローチしていくかが課題である。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 旧友や親戚などに会いに行きたいという要望もあり、その要望には応えられるようにしている。また行きつけの美容室などにも行けるような対応を行っている。 (外部評価) 面会に訪れる家族や旧友が多く、利用者との馴染みの関係が継続されている。行きつけの理容室やお墓参りに行きたい等の要望があり、可能な限り要望に沿えるような支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者が孤立しないように日々注意を払い、職員が利用者の中に入り上手くコミュニケーションがとれるような対応を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 熱心に運営推進会議に参加してくれた方などは、引き続きお誘いして参加して頂き、悩みなどの相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) なるべく本人の希望に沿ってサービスを行えるように努めている。自分で意思疎通出来ない方は、家族の意見などを聞き本人の尊厳を傷つけないようにサービスを行っている。 (外部評価) 月に1回個別で外出支援を行っており、その際に事業所内での悩み等利用者の思いや意向を聞き取っている。思いや意向を伝えることが困難な利用者については、過去の生活歴等を参考にしながら利用者本位になるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約時に家族や本人から聞いたバックグラウンドなどを基に環境を整備したり、サービスを行ったりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 特別なことや、異常が見られた時などは詳しく記録をとるなどして把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人と会議で話し合いはできておらず、ほとんどが職員同士での話し合いになっている。家族や本人には後日ケアプランを基に説明している。	
			(外部評価) 介護計画については、家族からの要望を可能な限り反映させながら、職員間で話し合い作成している。介護計画作成後に家族に確認をしてもらっている。3か月に1回見直すことでより良い支援に繋がるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日頃の記録を基に問題点などを見直し、実践や介護計画に反映していけるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個別サービスの時間を設け、一人ひとりに合ったサービスを提供できるようにしている。また行事の時は家族にも参加して頂き、家族とのコミュニケーションの場をなるべく多く作れるようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアやサロン活動に参加することにより本人が生きがいをもって生活することができていて、利用者も毎月楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 月1回～月2回の主治医の往診がある。 状態の異常などによる治療については本人や家族の意 向を大切に、主治医を交えてよく話し合いができる ように努めている。</p> <p>(外部評価) 内科や外科、歯科の往診があり、利用者の健康管理に ついてはしっかりと体制づくりがされている。基 本的に受診は家族が対応しているが、家族の都合が合 わないときは職員が対応している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 24時間体制で看護師との連携を図っている。看護師も 職員会議に参加し、情報を共有できるようにしてい る。 また記録をシステム化し看護師がいつでも記録を閲覧 できるようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時サマリーなどで情報交換しているが、利用者、 家族が安心できているとは言えない。また早期退院を 希望してもほとんどが病院の判断で退院が決められて いるのが現状である。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や、状態の悪化時に備えての話は運営推進会議 など日々話し合いを行っている。また事業所ができる 限界についてもよく理解してもらえるように、度々説 明の場は設けさせてもらっている。しかしながら職員 の看取りの経験が少ないが今後の課題となっている。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を作成しており、利用契約時に家 族への説明が行われている。利用者が重度化した場合 は、同法人の特別養護老人ホームへの利用も視野に入 れて家族との話し合いが行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時対応マニュアルを基に職員会議などで定期的に学習する時間を設けている。また法人で2年に1回救命救急の講習会を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 法人全体で年に2回避難訓練を行っている。毎回消防所の方々は参加してくれているが、この最近では地域の方は参加されていない。職員に関してはその時に消化等の演習を行っている。 (外部評価) 法人全体での避難訓練を年2回実施している。その内1回は夜間を想定して行っている。近隣のグループホームと地震を想定した訓練を行い、連携体制が整っている。	より具体的な想定がされた訓練を実施し、今後も利用者の安全を確保しつつ迅速に避難誘導ができるよう訓練に努めることを望みたい。また、避難訓練実施後の反省等を踏まえ、職員の災害に対する意識がより一層向上するよう今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりに尊重した声掛けをするように心掛けている。またプライバシーに配慮できるような介護を職員一人ひとりが行っている。 (外部評価) 居室に入る際には必ずノックすることやオムツ交換時にはドアを閉める等、利用者の尊厳を傷付けない支援が行われている。各居室にトイレが設置されているため、他の利用者が使用することもなく一人ひとりのプライバシーが確保されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 毎月の予定を立てる時に個人個人の個別サービスの日を設定し、利用者が希望を言いやすい状態を作りにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ一人ひとりのペースに合わせてケアをおこなえるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院に行ったり、ご希望の衣料店に買い物に行くなどしてなるべく個性がだせるような支援ができるように心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 豆のすじ取りや野菜の皮むきなど出来る利用者には声掛けてやってもらっているが、レベル低下が目立ちほとんど方ができていない。 (外部評価) 職員が作成した献立を栄養士が確認し、調理を行っている。食事介助に関する外部研修を受講しており、より質の高い支援につながるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの食事量をチェックし、1日の食事量を把握している。また一人ひとりの状態に応じて、きざみやミキサーなどで食べやすいような工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自立している方には声掛けで対応し、自分で出来ない方に対しては、口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 自立できていない方には排泄チェック表をつけて、排泄のパターンや量を確認できるようにしている。また出来る限り座ってでの排泄を心掛けている。	
			(外部評価) 職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々の状況に応じた適切な排泄支援を行っている。オムツからリハビリパンツに移行する利用者が増えており、利用者が自立できるよう支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 職員会議などで運動不足や食物繊維不足などの便秘の原因について看護師を中心に話し合っている。その話し合いを基に食事などで便秘の予防ができるように努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の順番などで利用者同士のトラブルになることが多いので入浴順番ボードを作るなどしてある程度職員が間に入り対応している。	
			(外部評価) 入浴の苦手な利用者については、慣れ親しんでいる職員が付き添ったり、声かけを行う等して気持ちよく入浴できるよう対応している。入浴前にバイタルチェックを行い、利用者の身体の状態を把握した上で入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自立されている方は自由に休息しているが、自立されていない方に関しては、昼寝の時間を作るなどして本人の体調に合わせて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方の説明用紙を各個人ファイルに挟んで把握している。服薬時には誤薬がないように職員で声を掛け合いまちがいの無い様に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別サービスの時間を利用したり行事に参加したりして楽しむみを充実できるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個別サービスの時間や行事で外出している。行事に関しては、家族も参加している。サロン参加などに関しては地域の人々が協力してくれている。	
			(外部評価) 月に1回個別で外出支援を行っており、散歩やドライブ、買い物等に出掛けている。できる限り利用者の要望に沿った支援を行っている。事業所周辺が自然に囲まれており、気持ちよく散歩できる環境となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 数名の方はお小遣い程度を自分で所持しているが、ほとんどの方が家族の希望もありホームの方で管理させてもらっている。また使える場面では自分で所持している方は自分で支払いをされている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自立される方は自分で電話をかけたたり手紙を書いたりしているが、自立されていない方に関しては意思疎通が困難なため難しいのが現状である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地よく過ごせるように配慮しているが、ある程度の生活音などは大切だと思うため、そこまで神経質にならずに普通の生活と同じくらいの感覚で対応している。	
			(外部評価) 日当たりがよく、窓からは自然豊かな風景が一望でき、利用者が気持ちよく生活できる環境が整っている。台所からは居間全体が見渡せ、利用者の生活状況が把握できる構造となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ほとんどの方が、一人になりたい時は居室で過ごしている。またの他の方の居室を訪れるなどして、利用者同士で自由に交流している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居する前に使っていた筆筒などを持ってきている方が多く、仏壇なども持ってきて、入居する前と変わらない環境作りに家族の協力の基努めている。	
			(外部評価) 居室には植木鉢や仏壇等、各々が自由に好きなものを置き、行事の写真や俳句等の手づくり作品が飾られている。居室は十分な広さが確保されており、ゆっくり寛ぐことのできる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 開設してから10年経ち、建物老朽化や今のADLに合わない箇所も目立ってきているため、今後補強などが必要だと思われる。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102187
法人名	社会福祉法人 松山紅梅会
事業所名	グループホーム 梅本の里
所在地	愛媛県松山市北梅本町1624-1
自己評価作成日	平成 23 年 10 月 23 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の行きたいところに行き、やりたい事をやるというように、なるべく利用者の希望を叶えられるようにすることに特に力を入れている。開設から10年が経ち、ハード面が今の利用者のADLに対応できないことも出てきているので、そのところは職員の技術向上に努めてカバーしていけるようにしている。またADLの低下で外出なども減ってはいるが、その分、ホーム内行事などを見直し充実させる事がこの最近できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者と共に笑い・家族と共に歩み・地域と共に支え合う」という理念を掲げ、利用者一人ひとりを尊重した支援を心掛けている。事業所開設当初からボランティア団体と繋がりを持ち、サロン等を通じて地域との触れ合いは活発である。ペランダからは、自然豊かな景色が一望でき、遠方の外出が困難な利用者に対しても満足できるような環境となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 梅本の里

(ユニット名) 2 F

記入者(管理者)

氏名 山中 敬子

評価完了日 平成 23 年 10 月 23 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) よく目につくところに掲示し意識を高め、実践できるよう努力している	
			(外部評価) 全職員で話し合い「利用者と共に笑い・家族と共に歩み・地域と共に支え合う」という理念を掲げている。玄関やユニット内等、目の行き届きやすい場所に掲示し、職員間で共有されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価) 地域サロンに出かけたり、地域行事にも積極的に参加したり、幼稚園・小中学校とも交流をもち、地域の一人として交流している	
			(外部評価) 法人主催の夏祭りには地域の大勢の方の参加があり、行事を通じて交流を深めている。月1回開催されるサロンには利用者が参加しており、カラオケやゲートボール等を行い楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 小学校に出前授業に出かけたり、地域行事等の際、劇などを通して理解をしていただけるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者やサービス内容他について報告、意見交換、要望を受け、サービス向上に活用している	
			(外部評価) 会議では主に利用者の状況の説明や開催予定の行事の説明をしている。議題については話し合いをする中で自然に出される等、参加者が気軽に意見を出しやすい雰囲気となっている。運営推進会議を行事と合わせて開催する等、参加しやすいよう工夫している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の際、実情やケアサービスの取組みを伝えているが、密には連絡できていない	
			(外部評価) 市介護保険課と介護保険の制度内容の確認や情報交換をしたり、地域包括支援センターと利用者についての相談等を行っている。保健所からは事業所内における衛生面のアドバイスがあり、利用者へ提供するサービスの向上に反映させている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修 職員会議での勉強などで正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	
			(外部評価) 地域密着型サービス協会や県が主催する研修に積極的に参加し、身体拘束をしないケアの知識と技術の向上に努めている。研修で得た情報や知識については、職員会議等を通じて職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修 職員会議での勉強などで理解を深め、虐待を見過ごさないよう、また、防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者などは、研修で学ぶ機会があるが、職員はその機会が持っていない。必要とする対象者がいない	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族に入所時、説明しているが十分な理解に至っていないと思うため、必要に応じ再度説明を行い理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者や職員は運営推進会議・行事の際に、利用者、家族から意見 要望を聞き、運営に反映させている (外部評価) 3か月に1回、家族へケアプラン説明をする時や、運営推進会議の際に意見をもらっている。家族が意見を気軽に言いやすい関係を構築するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 代表者は積極的に面談 アンケートを行い意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は職員とコミュニケーションを密にとり、意見や提案がいつでもできる体制を作っている。また、職員会議を活用しての意見や提案もあり、反映させている</p> <p>(外部評価) 毎月行われる職員会議や日々の業務の中で意見が出されている。出された意見については、職員同志で話し合いを行い事業所の運営がより良いものとなるよう、取り組まれている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は、管理者や職員個々の事をよく把握し、評価を行い、意欲・向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 代表者は、法人内外の研修を積極的に受ける機会を確保し、常に職員にスキルアップするよう働きかけている。朝の勉強の時間を設けるなど資格取得に向けた取り組みもしている</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 同業者との相互訪問 月1回の外部研修などで交流の機会を持ち、サービスの質の向上に努めている</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 家族・ケアマネージャー等からの情報を基に、本人とコミュニケーションをとりながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ケアマネージャー等の情報を基に、事前面談時などに家族の言葉を傾聴し、適切な対応を行い、関係づくりに努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 多方面から情報収集をし、ケアマネージャーとも相談しながら、今必要としている支援の見極めに努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者に持てる力を発揮していただき、できるだけ寄り添い、共に、支え合う関係づくりに努めている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と、相談・連絡・報告を密に行い、本人と家族の絆を大切にしながら、よい関係が築けている一方、一部、家族の都合で関係づくりのできてない方もおられる	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出を拒否される方もおられるが、個別サービスなどを利用し、要望にこたえ、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している (外部評価) 面会に訪れる家族や旧友が多く、利用者との馴染みの関係が継続されている。行きつけの理容室やお墓参りに行きたい等の要望があり、可能な限り要望に沿えるような支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が利用者同士の関係を把握し、1F、2Fを問わず関わり合い、支え合える支援につとめている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても運営推進会議に出席して下さる方もおられ、相談や支援に努めている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話を大切にし、利用者の希望や意向・気持ちの把握に努めている。困難な方は、その人らしきが出るような暮らし方など、検討の機会を持っている	
			(外部評価) 月に1回個別で外出支援を行っており、その際に事業所内での悩み等利用者の思いや意向を聞き取っている。思いや意向を伝えることが困難な利用者については、過去の生活歴等を参考にしながら利用者本位になるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時、本人・家族より情報を収集し把握している。また、家族の来所時、随時お聞きしたり、本人の会話のなかより把握に努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 様子観察、コミュニケーションにより一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 利用者の生活の様子、心身状態を観察し、必要に応じて医療関係者とも相談して介護計画を作成している。家族には、来所時意見、要望をお聞きして計画に反映するようにしている。ケアプランに基づき実践し、カンファレンスを行い、適切な介護の提供に努めている</p> <p>(外部評価) 介護計画については、家族からの要望を可能な限り反映させながら、職員間で話し合い作成している。介護計画作成後に家族に確認をしてもらっている。3か月に1回見直すことでより良い支援に繋がるように努めている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別記録の実践により、職員間で情報の共有はできている。介護計画の見直しに活用もしている</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の状況に応じて、通院など必要な支援をしている。また、併設施設の機能を生かし、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域サロンに出かけたり、地域の豊かな自然を満喫していただいたりして、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人及び家族が希望する主治医から定期的 に往診を受けている。また、必要に応じて、 受診の付き添いや家族とも同行し、普段の 様子や変化を伝えるようにしている</p> <p>(外部評価) 内科や外科、歯科の往診があり、利用者 の健康管理についてはしっかりと体制づくり がされている。基本的に受診は家族が対応 しているが、家族の都合が合わないときは 職員が対応している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 職場内の看護職員と協働し、利用者が適 切な受診や看護を受けられるよう支援して いる</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療で きるように、また、できるだけ早期に退院 できるように、病院関係者との情報交換や 相談に努めている。または、そうした場合 に備えて病院関係者との関係づくりを行っ ている。	<p>(自己評価) 入院時に病院関係者に、介護情報提供書 を提供し、安心して治療できるように、ま た、早期退院に向けての情報交換、相談に 努めて、よい関係づくりができてい る</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者と 共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人・家族の意思を踏まえ、随時、意思 の確認、相談、説明を行い、支援に取 組んでいる</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を作成しており、利 用契約時に家族への説明が行われている。 利用者が重度化した場合は、同法人の特 別養護老人ホームへの利用も視野に入 れて家族との話し合いが行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 夜勤時の緊急対応マニュアルを、整備している。必要に応じて、職員会議で応急手当の勉強をする時間を設けているが、定期的な訓練は行えていない	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消火器・火災探知機の設備点検を定期的に、行っている。非常用食料も準備している。消防署の協力を得て、避難訓練、消火器の使い方などの訓練もしている (外部評価) 法人全体での避難訓練を年2回実施している。その内1回は夜間を想定して行っている。近隣のグループホームと地震を想定した訓練を行い、連携体制が整っている。	より具体的な想定がされた訓練を実施し、今後も利用者の安全を確保しつつ迅速に避難誘導ができるよう訓練に努めることを望みたい。また、避難訓練実施後の反省等を踏まえ、職員の災害に対する意識がより一層向上するよう今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に十分配慮している (外部評価) 居室に入る際には必ずノックすることやオムツ交換時にはドアを閉める等、利用者の尊厳を傷付けない支援が行われている。各居室にトイレが設置されているため、他の利用者が使用することもなく一人ひとりのプライバシーが確保されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個別サービスの機会などに思いや希望が表せるように支援している。また、個々のわかる力に合わせた説明を行い、答えやすく、選びやすいように支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペース・希望にそっての支援に努めているが、どうしても、職員側の都合になってしまうこともある	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人の機能に合わせて、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。本人が望む理美容店の利用も支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立に利用者の好物、誕生日には希望メニューを取り入れている。また、調理の下ごしらえ・片付けなども利用者と共に行い、利用者と同じテーブルで食事を摂り、食事が楽しみなものになるよう工夫している	
			(外部評価) 職員が作成した献立を栄養士が確認し、調理を行っている。食事介助に関する外部研修を受講しており、より質の高い支援につながるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分摂取量の記録やチェックを個々に応じて、対応している。献立は1週間単位でたて、栄養士のチェックを受け、栄養バランスの確保を図っている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、その人の能力に応じて口腔ケアをしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの力やパターン、習慣を活かして様子観察、声掛け、誘導などを行い、自立に向けた支援をしている	
			(外部評価) 職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々の状況に応じた適切な排泄支援を行っている。オムツからリハビリパンツに移行する利用者が増えており、利用者が自立できるよう支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品 水分 繊維質の多い食物 野菜の摂取をしていただき栄養バランスを考え、スムーズな排便ができるよう	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々に応じて希望をお聞きし、実地できているが、意思表示のできない方は、体調などに合わせて入浴の支援をしている	
			(外部評価) 入浴の苦手な利用者については、慣れ親しんでいる職員が付き添ったり、声かけを行う等して気持ちよく入浴できるよう対応している。入浴前にバイタルチェックを行い、利用者の身体の状態を把握した上で入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせて昼寝をしていただいたり、気持ちよく眠れるよう、日中の活動に配慮している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 使用している薬の目的などを職員はきちんと理解し、確認できるように処方箋はファイルしている。服薬は本人手渡し、または、介助にて服薬していただき、服薬確認もしている。症状の変化の確認も行っている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の準備の手伝い、洗濯たたみなどできることを手伝っていただき、活躍の場面をつくり、感謝の言葉を伝えている。カラオケ、生け花、個別サービスなどで気分転換の支援をしている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望にそって個別サービスでドライブや行事に、出かけられるよう支援している。	
			(外部評価) 月に1回個別で外出支援を行っており、散歩やドライブ、買い物等に出掛けている。できる限り利用者の要望に沿った支援を行っている。事業所周辺が自然に囲まれており、気持ちよく散歩できる環境となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持については、家族 本人の希望に応じて対応、支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じて自由に電話ができ、電話がかけれない方は、利用者に応じた対応をしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) すだれを利用し光の調整をしたり、浴室の窓にはシールを貼りくつろいで入浴できるように等と配慮し、居心地よく過ごせるように工夫をしている</p> <p>(外部評価) 日当たりがよく、窓からは自然豊かな風景が一望でき、利用者が気持ちよく生活できる環境が整っている。台所からは居間全体が見渡せ、利用者の生活状況が把握できる構造となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 廊下に椅子を置いたり、テレビ前にソファを置いて独りになれたり、利用者同士の交流が図れるように工夫している</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所前に使っていた馴染みの品や好みの物を持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるように工夫している</p> <p>(外部評価) 居室には植木鉢や仏壇等、各々が自由に好きなものを置き、行事の写真や俳句等の手づくり作品が飾られている。居室は十分な広さが確保されており、ゆっくり寛ぐことのできる空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりのわかる力に合わせて、居室やトイレがわかりやすく目印・写真を利用し、不安や混乱材料を取り除きできる力を生かすよう支援している</p>	